

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会
公演団体名	劇団たんぽぽ

<b>内容</b>
ワークショップは、コロナ感染対策のため、学校側の要望に合わせ、参加人数の制限や、時間短縮等を、話し合いで決めます。内容につきましても、無理のないところで実施いたします。
<b>【事前準備】</b> 事前に、作品中の音楽CDと楽譜を、学校へ郵送します。音楽の時間や給食の時間を利用して、音楽を流し、歌を周知していただきます。
<b>【ワークショップ当日】</b>
①体を使った表現遊び（お互いの接触を避け、マスクをしたままでの表現を体験する） 大きなかぶ参加へ向けてのワークショップ （声を出さずに、どういった形をかぶが抜けるよう応援できるかを考える。）
②劇中歌の練習（コロナ対策バージョン） コロナ対策で歌を歌わない（声を出さない）バージョン→音楽に合わせ、手拍子や、ボディーパーカッションなどで、リズムを取って、歌に参加する。

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
本公演の当日、公演前の1時限以内もしくは、2時限で人数を分散して、ワークショップを行います。 （※学校側のご要望によって、相談に応じます。）

<b>派遣者数</b> ※派遣者数の内訳を御入力ください
主指導者 1名
補助者 4名

<b>学校における事前指導</b>
事前に音楽CDを送りますので、劇中歌の周知をお願いします。コロナ感染防止のため、歌を歌うことができない場合は、教材配布のみとし、楽譜、歌詞共に、児童生徒に配布していただきたいと思っております。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対策版】

制作団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会
公演団体名	劇団たんぽぽ

<b>演目</b>
『おはなしレストラン』（上演時間 約60分） 原案/ブレーメンの音楽隊・おおきなかぶ 脚本/宮田恵紀子 演出/村岡由美子 音楽/村岡由美子 衣装・美術/柿平衣名美 照明/真野亮文

<b>派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください</b>
出演者 5名 スタッフ 2名 (合計 7名)

<b>タイムスケジュール（標準）</b>
8:30 学校到着 8:30~10:30 舞台設営 10:30~12:10 ワークショップ 12:10~13:00 昼食 13:00~14:00 本公演 14:00~15:30 撤収 15:30~ 退出
※上記は、基本です。学校側と相談しながら進めていきます。 密を避けるためのワークショップ時間短縮によって、公演時間も午前中に前倒しするなど、変更に対応します。

<b>実施校への協力依頼人員</b>
特に必要ございません。

## 演目解説

「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」を組み合わせ、『おはなしレストラン』として上演します。

### 【あらすじ】

ある時、ふと、あらわれる、不思議なレストラン。このレストランでお出しするのは、食べ物のお料理ではありません。お客様にピッタリのお話をご用意する、その名も「おはなしレストラン」

ある日、使い込まれたランドセルを背負った男の子がやってきました。「このランドセルがピカピカだったころ、ボクは何でもできるような気がしていた。でも・・・。」ふうーっと、ため息をついたその時に、レストランはあらわれる。

「いらっしやいませ。おはなしレストランへようこそ。君にピッタリの、今日のメニューは、これ！」さて、扉をあけたその先で、男の子を待っていたお話は・・・。男の子が、出されたお話の中で活躍します。

誰もが知っている「ブレーメンの音楽隊」と「おおきなかぶ」のお話を、客席とコミュニケーションを取りながら演じ、演劇を身近に感じてもらえる作りとなっています。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

コロナ対策の対応として、児童生徒たちには、大きなかぶを抜くシーンと、劇中歌の歌を歌うシーンで、声を出さずに応援してもらう形で参加してもらいます。手拍子をしたり、旗を振ったりなどして、声に頼らずに、公演と一緒に参加している気持ちを味わってもらえるよう工夫します。

## 児童生徒とのふれあい

学校側の時間が許す限り、ご希望がございましたら「バックステージツアー（舞台裏見学）」を行いたいと思います。

その際は、児童同士の距離を保ちながら、舞台上を一定方向に見て回れるよう工夫します。また、質問を受け付け、それに答える形で、役者との交流を図りたいと思います。